

維持員様感謝の集いについて

Gathering of Gratitude to Honor Supporting Members

サービス委員会委員長 植松友彦

1. はじめに

昨年度から始まった維持員様感謝の集いは、2020年に維持員制度が80年を迎えたことを記念して発足し、10年ごとの御援助の節目を迎える維持員の皆様に対して多年表彰させて頂くとともに、学会活動全般への御協力に感謝を申し上げる集いです。

今年度の催しは、2021年11月19日に、菊間総務理事の司会の下、機械振興会館の会場とオンラインのハイブリッドで執り行われました(図1)。また、募金活動への御協力等、本会の事業に御貢献頂いている皆様に対して感謝状を贈呈致しました。今年度は、オンライン実施における新たな取組みとして、会議システム EventIn を利用するとともに、MediaPOT というツールによって参加者に対してリアルタイムでアンケートを実施しました。

2. 挨拶と学会紹介

2.1 会長挨拶

学会を代表して石田会長から、本集いの開催の主旨に

ついて説明がありました(図2)。石田会長は、本会の沿革を説明するとともに、歴史はイノベーションの記録であり、私たちのイノベーションの記録を残そうと呼び掛けました。そして、これまでの一つの業種、一つの専門に閉じた協働から、多くの業種、多くの専門にまたがる協働への革新が必要であることを述べ、本会が業種や専門を超えた新たな産学官協働の場となるよう、学会トランスフォーメーションに取組む決意が述べられ、維持員様からの積極的な提案・参加・支援をお願いしました。

2.2 事業の紹介

寺田総務理事から、本会の概要(歴史、活動基本方針、組織構成、会員数の推移等)と活動(会誌、選奨、論文誌、大会、研究会、国際会議、支部活動、国際活動、標準化等)についての紹介がありました(図3)。また、新たに取り組んでいるサービスやプログラムとして、電気・電子系高度技術者育成プログラム、新型コロナへの対応、IEICE ICT Pioneers Webinar シリーズ、支部 CoE (Center of Excellence) シンポジウム、今年度の集いでも用いた会議システム EventIn 等についての説明がなされました。



図1 司会の菊間総務理事(オンライン)



図2 石田会長(機械振興会館)



図3 寺田総務理事（機械振興会館）



図4 森永様による御講演

3. 特別講演

特別講演として、日本電気株式会社データサイエンス研究所上席主席研究員の森永聡様から「自動交渉 AI 技術の研究開発と社会実装」と題して、相手との相談や交渉を支援・自動化する AI 技術について御講演頂きました（図4）。スマート化された個別システムが普及してその価値を発揮するためには、それらの間の挙動や利害調整を行う機能が鍵になるということを示し、無人搬送車やドローンなどの移動体間での経路や軌道の調整、企業間での取引条件の交渉などの研究開発が紹介されました。また社会実装においては、国際標準化、公式テストベット化、事業開発のための会社設立、コンソーシアムの設立などが紹介されました。最後に、Society 5.0 実現には、自動交渉 AI 技術が必須であり、研究開発と社会実装の両面において学会を通じて推進していきたいと述べられました。



図5 多年表彰盾（(株)日立製作所の場合）

4. 表彰式

4.1 多年表彰

多年表彰は、維持員になって頂いてから10年ごとに本会からの感謝の意を表するものです（図5）。今年度の対象機関は、以下の16機関です。

- | | |
|---------------------------|---------------------------------|
| ① 80年表彰 株式会社日立製作所殿 | ⑬ 30年表彰 公益財団法人高柳健次郎財団殿 |
| ② 80年表彰 富士通株式会社殿 | ⑭ 30年表彰 株式会社リデック殿 |
| ③ 80年表彰 沖電気工業株式会社殿 | ⑮ 10年表彰 株式会社 ATR-Trek 殿 |
| ④ 80年表彰 住友電気工業株式会社殿 | ⑯ 10年表彰 ソニーセミコンダクタソリューションズ株式会社殿 |
| ⑤ 80年表彰 株式会社東芝殿 | |
| ⑥ 80年表彰 株式会社フジクラ殿 | |
| ⑦ 80年表彰 古河電気工業株式会社殿 | |
| ⑧ 80年表彰 日本無線株式会社殿 | |
| ⑨ 70年表彰 九州電力送配電株式会社殿 | |
| ⑩ 70年表彰 サクサ株式会社殿 | |
| ⑪ 70年表彰 新電元工業株式会社殿 | |
| ⑫ 50年表彰 NECプラットフォームズ株式会社殿 | |

表彰された機関を代表して、80年表彰の富士通株式会社 武仲正彦様から御挨拶を頂き、創業86年で維持員80年というエピソードが披露されました（図6）。このような維持員様の御支援によって本会の活動が継続できていたことに感謝申し上げます。



図6 富士通 武仲様



図7 募金感謝状

4.2 募金感謝

募金活動については、「子供の科学教室」に御寄付頂いたソニーセミコンダクタソリューションズ株式会社様に対して感謝状を贈呈しました（図7）。

5. 維持員サービスの紹介

本会の様々な会員サービスの向上を目指しているサービス委員会を代表して、同委員長（副会長）の植松から、維持員様に提供しているサービスについて紹介しました（図8）。特に、今年度から開始した維持員様向けのWebinar サービス、知識の森・広告サービスのほか、これから新たに始まる会員へのプッシュ型情報サービスについて説明しました。

6. 懇談会

今年度は、会議システム EventIn のテーブルを利用してリモートの懇談会を行いました。また本会が新たにV-cube 社に開発してもらった「つながり機能」を利用して名刺交換も実施しました。参加した維持員様にとって懇談会は大変好評であり、あっという間に終了時間を迎えたのが大変残念でした。

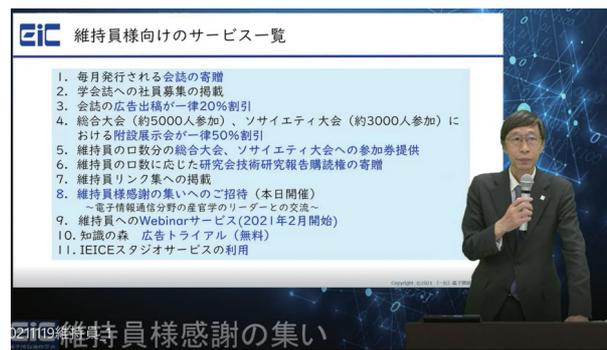


図8 植松副会長による維持員様向けサービスの紹介



図9 川添次期会長（オンライン）

7. おわりに

川添次期会長から、本集いに御出席頂きました維持員の皆様（26 機関がオンラインで御出席）、特別講演を頂きました森永様、御挨拶を頂きました武中様に対して感謝の辞が述べられました（図9）。

また、今回のコロナ禍や環境の問題によって、様々なものが大きく変わってきており、それに伴って必要な技術も変わってきたことが述べられました。そして、この変化に対抗するためにドラスティックな技術革新を行わなければならない、本会としては、産学官の連携によって、基礎研究から実用化開発までのプロセスの内容やスピード感を高めていきたいという決意が述べられました。